



人工芝グラウンドの完成予定図(光星学院提供)

人工芝グラウンド整備

八学大2面、来年6月完成

八戸市の学校法人光星学院(法官新一理事長)は25日、八戸学院大などがある同市の美保野キャンパスに、人工芝のグラウンド2

古川聡常務理事は「地域のスポーツ振興に寄与していきたい」と期待を込めた。同日、八学光星高で古川常務理事や高校、大学のサッカー、ラグビー両部の指導者らが出席して記者会見を開き、概要を説明した。同法人によると、学校施設で2面の人工芝グラウンドを整備するのは東北地方で初めて。面積は計2万1千平方メートルで、日の短い冬場の練習にも対応するため、照明なども設置する。11月にも着工し、来年6月の完成予定。

今回の整備を契機に、サッカー、ラグビー両部とも高校、大学間での連携を強め、さらなる競技力向上を目指す。また、2019年度には高校に女子サッカー部も新設する予定。同校サッカー部の畑中裕章監督は「生徒にとって念願の人工芝。他校との強化試合なども組み、充実した練習をしたい」と話した。

(金濱千優希)